

三重県経済の現状と見通し<2021年10月>

1. 景気判断 一覧表

部門	個別項目	基調判断(方向等)	基調判断の 前月との 比較(注1)	水準評価 (注2)
		詳細		
総括判断	景気の現状	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる	→	☁️ ☂️
		依然として厳しい状況にあるが、海外経済の回復もあって、企業部門を中心に持ち直しの動きがみられる。		
家計部門	個人消費	サービス支出を中心に弱い動きがみられる	→	☁️
		大型小売店販売額(全店ベース)は、4か月連続の前年比減少		
	住宅投資	上向きつつある	→	☁️
		住宅着工戸数は、5か月連続の前年比増加		
	観光	上向く兆し	↗️	☂️
	県内施設延べ宿泊者数は、5か月連続の前年比増加			
雇用・所得	持ち直しの動きがみられる	↗️	☁️ ☂️	
	有効求人倍率(季節調整値)は、4か月連続の前月比上昇			
企業部門	企業活動	持ち直しの動きがみられる	→	☁️
		鉱工業生産指数は、6か月連続の前年比上昇		
	企業倒産	小康状態	→	☁️
	倒産件数は、3か月連続の前年比増加			
	設備投資	持ち直しの動きがみられる	→	☁️
		非居住用建築物着工床面積は、7か月振りの前年比減少		
海外部門	輸出	持ち直しの動きがみられる	→	☁️
公共部門	公共投資	持ち直している	→	☁️
その他	物価	上昇の兆し	→	△
		津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、2か月連続の前年比上昇		

当面の見通し	世界的な半導体不足等を受けた自動車の減産などが下押し要因となり、持ち直しのテンポは弱まる見込み
	ワクチン接種の進展に伴いサービス消費は持ち直しに向かうも、自動車の減産などを受けた企業部門が下押し要因となり、景気持ち直しのテンポは弱まる見込み。

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗️:上方修正、⇔:据え置き、↘️:下方修正を示す。

(例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる)したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、

☀️:晴、☀️|☁️:晴～曇、☁️:曇、☁️|☂️:曇～雨、☂️:雨、を示す。

(注3)個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先	三十三総研 調査部 佐藤
	電話:059-354-7102 Mail:33ir@33bank.co.jp

2. 個別部門の動向: 家計部門

個人消費	サービス支出を中心に弱い動きがみられる	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☁

《現状》

- 個人消費は、サービス支出を中心に弱い動きがみられる。
- 個人消費の動向を支出者側からみると、8月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比+11.8%と2か月振りの増加(図表1)。勤労者世帯可処分所得(津市)は同▲1.1%と2か月振りの減少(前掲図表1)。
- 個人消費の動向を販売者側からみると、8月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースで前年比▲5.1%と4か月連続の減少となったほか、既存店ベースでは同▲4.1%と2か月振りの減少(図表2)。全店ベースを商品別にみると、飲食料品(同▲3.0%)や衣料品(同▲21.4%)、家庭用電気機械器具(同▲59.9%)がそれぞれ2か月連続、3か月連続、2か月振りの減少。
- 9月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、4,951台(前年比▲33.7%)となり、前年比で2か月振りの減少(図表3)。車種別にみると、普通車(同▲26.1%)、小型車(同▲34.3%)、軽乗用車(同▲39.8%)がそれぞれ12か月振り、5か月連続、3か月連続の減少。世界的な半導体不足等を背景とした減産による納車遅れが影響。

《見通し》

- 東海地域の現状判断DI(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、9月の家計部門の水準は39.8と、前月(28.6)より改善。ウォッチャーの声では、9月中旬以降に新型コロナの感染者数が落ち着いたことによって、景気が上向いたという声が多く聞かれた。2~3か月先の景気の先行きに対する判断DIについても、10月以降の緊急事態宣言等の全面解除に加え、ワクチン効果の顕在化への期待の高まりから、58.9と過去最高水準に上昇しており、消費者マインドの改善が期待される状況。
- 地域経済分析システム「V-RESAS」をみると、執筆時点で最新データである10月第2週の移動人口は新型コロナ前の2019年同週比▲6%、飲食店情報閲覧数は同▲26%と前月からマイナス幅が縮小。飲食店等への営業時短要請が約2か月振りに全面解除されるなど、外出関連の消費を中心に持ち直しに向かうことが期待される。なお、冬場にかけて感染が急拡大する懸念があり、経済活動の抑制再強化には注意する必要。

◆8月 勤労者世帯・消費支出

○ 297千円 前年比 +11.8% (2か月振りの増加)

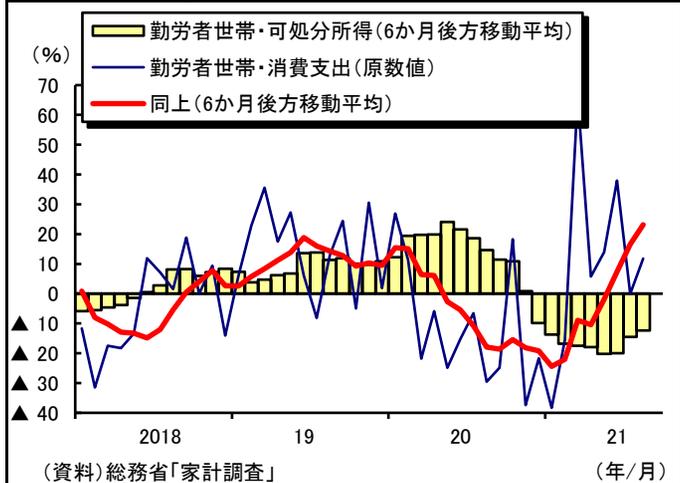
◆8月 大型小売店販売額

○ 全店 前年比 ▲5.1% (4か月連続の減少)  
○ 既存店 前年比 ▲4.1% (2か月振りの減少)

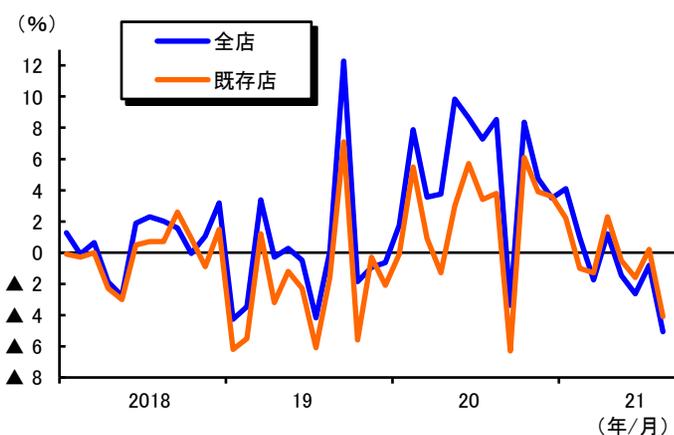
◆9月 新車乗用車販売台数<含む軽>

○ 4,951台 前年比 ▲33.7% (2か月振りの減少)  
・普通車 1,941台 前年比 ▲26.1% (12か月振りの減少)  
・小型車 1,173台 前年比 ▲34.3% (5か月連続の減少)  
・軽乗用車 1,837台 前年比 ▲39.8% (3か月連続の減少)

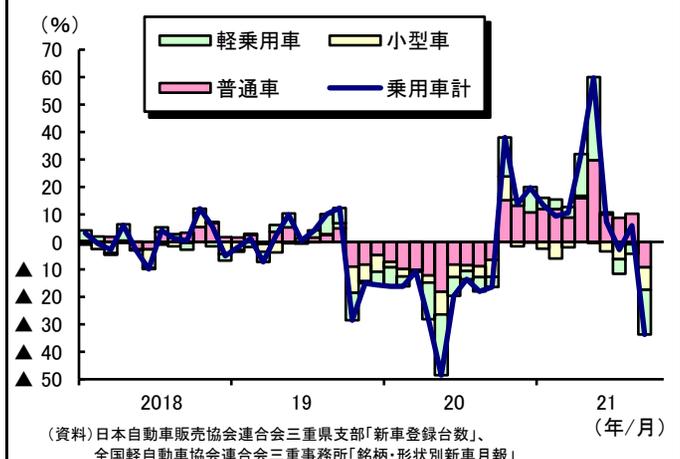
図表1 津市消費支出等<前年比>



図表2 大型小売店販売額<前年比>



図表3 新車乗用車販売台数<前年比>



<b>住宅投資</b>	<b>上向きつつある</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	☁
<p><b>《現状》</b>                  ○住宅投資は、上向きつつある。                  ○8月の住宅着工戸数は、925戸(前年比+49.7%)となり、前年比で5か月連続の増加(図表4)。利用関係別にみると、貸家(同+73.5%)が2か月振りに増加したほか、持家(同+25.9%)が3か月連続、分譲住宅(同+108.8%)が4か月連続、給与住宅(同+250.0%)が3か月連続で増加。</p> <p><b>《見通し》</b>                  ○名古屋に近い四日市市や桑名市の近鉄電車が停車する駅周辺ではマンション用地の需要が高まっているほか、景気の持ち直しに伴い住宅着工は堅調に推移すると予想される。なお、世界的な品不足を受けた木材価格の高騰「ウッドショック」について、国土交通省が公表した9月の主要建設資材の需給動向調査では建設用木材は「ややひっ迫」としており、住宅価格高騰による着工下押しなど今後の動向には引き続き注意する必要。</p>			
<p><b>◆8月 住宅着工戸数</b>                  ○ 925戸 前年比 +49.7% (5か月連続の増加)                  ・持家 452戸 前年比 +25.9% (3か月連続の増加)                  ・貸家 347戸 前年比 +73.5% (2か月振りの増加)                  ・給与住宅 7戸 前年比 +250.0% (3か月連続の増加)                  ・分譲住宅 119戸 前年比 +108.8% (4か月連続の増加)</p>		<p><b>図表4 新設住宅着工戸数&lt;前年比&gt;</b></p> <p>(資料)国土交通省「建築着工統計」 (年/月)</p>	

<b>観光</b>	<b>上向く兆し</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	↗
		<b>水準評価</b>	☔
<p><b>《現状》</b>                  ○観光は、上向く兆し。                  ○7月の三重県内施設延べ宿泊者数は、483千人泊(前年比+29.2%)となり、前年比で5か月連続の増加(図表5)。外国人宿泊者数については1.3千人泊(同▲53.7%)となり、前年比で18か月連続の減少。</p> <p><b>《見通し》</b>                  ○感染状況が改善しつつあることから、県内の宿泊施設の宿泊代金を割引する県民限定のクーポン「みえ得トラベルクーポン」の発行を10月15日から再開するなど、宿泊者数は持ち直しに向かうことが期待される。もっとも、感染拡大前の2019年7月(749千人泊)と比較して水準は依然低く、感染拡大前を回復するには時間を要するとみられる。</p>			
<p><b>◆7月 県内施設延べ宿泊者数</b>                  ○ 483千人泊 前年比 +29.2% (5か月連続の増加)                  ・外国人 1.3千人泊 前年比 ▲53.7% (18か月連続の減少)</p>		<p><b>図表5 三重県内施設延べ宿泊者数</b></p> <p>(資料)国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」 (年/月)</p>	

雇用・所得	持ち直しの動きがみられる	基調判断の前月との比較	✎
		水準評価	☁️☔

＜現状＞

- 雇用・所得情勢は、持ち直しの動きがみられる。
- 8月の有効求人倍率(季節調整値)は、1.27倍(前月差+0.01ポイント)と4か月連続の上昇。新規求人倍率(季節調整値)は、2.10倍(同+0.16ポイント)と3か月振りの上昇(図表6)。
- 8月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースで前年比+25.5%と6か月連続の増加(図表7)。業種別にみると、製造業(同+45.9%)では、金属製品(同+185.2%)やプラスチック製品(同+385.0%)、輸送用機械(同+85.3%)などが増加。非製造業では、運輸業、郵便業(同+125.4%)やその他サービス業(同+23.3%)、医療、福祉(同+17.7%)などが増加。
- 7月の所定外労働時間指数は、前年比+24.8%と4か月連続の上昇。名目賃金指数(同+6.8%)については2か月振りの上昇で、きまって支給する給与(同+3.1%)は2か月振りの上昇(図表8)。

＜見通し＞

- 三十三総研が県内中小企業を対象に実施した「第51回経営者アンケート」によると、2021年10月～2022年3月に雇用を「増やす」と回答した企業の割合は31.3%と前回見通し(30.8%)を小幅に上回っているほか、「減らす」と回答した割合は3.6%と前回見通し(4.4%)を下回っており、中長期的な人手不足への懸念から雇用を確保する動きが継続。なお、緊急事態宣言が解除されたことで、先行き飲食業を中心に雇用が増加に転じるとみられるものの、感染再拡大への懸念が残るなか、当面、雇用環境の改善ペースは緩やかにとどまる見込み。
- 所得については、製造業は生産活動の拡大を受け持ち直し傾向にあるほか、サービス業においても緊急事態宣言解除に伴い飲食店などの時短要請がすべて解除されたことを受け、持ち直しに転じることが期待される。なお、コロナ禍での企業収益の悪化が今年度の年末賞与に影響を及ぼす見通しであり、賃金全体の本格的な改善は当面、期待し難い状況。

◆8月 求人倍率＜季節調整値＞

- 有効求人倍率 1.27倍  
前月差 +0.01ポイント (4か月連続の上昇)
- 新規求人倍率 2.10倍  
前月差 +0.16ポイント (3か月振りの上昇)

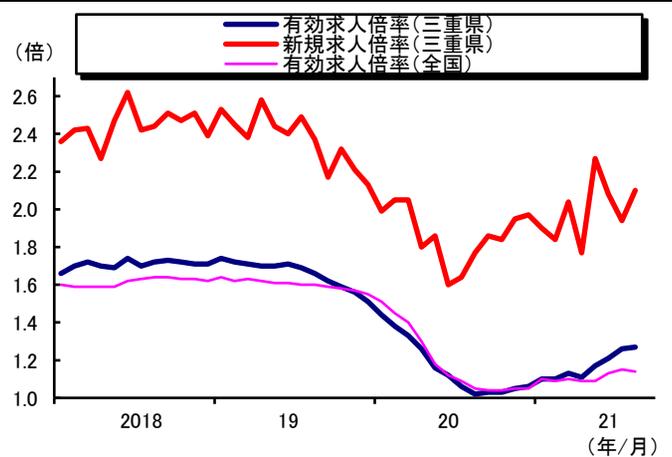
◆8月 新規求人数＜学卒・パートタイム除く＞

- 前年比 +25.5% (6か月連続の増加)

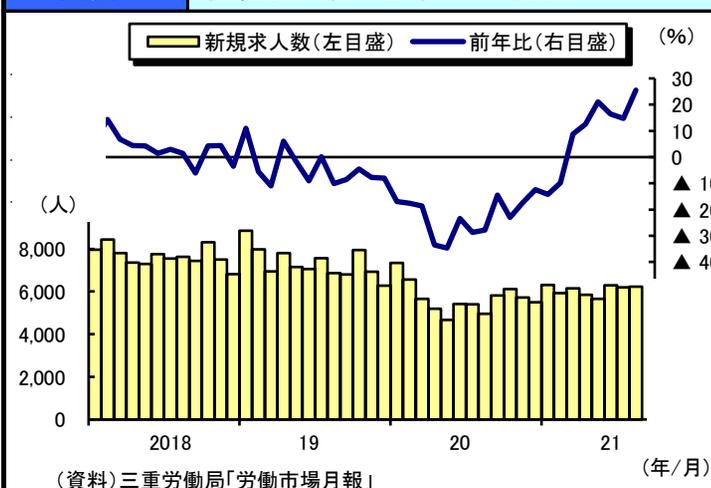
◆7月 労働時間・賃金指数＜調査産業計＞

- 所定外労働時間指数  
前年比 +24.8% (4か月連続の上昇)
- 名目賃金指数  
前年比 +6.8% (2か月振りの上昇)
- ・きまって支給する給与  
前年比 +3.1% (2か月振りの上昇)

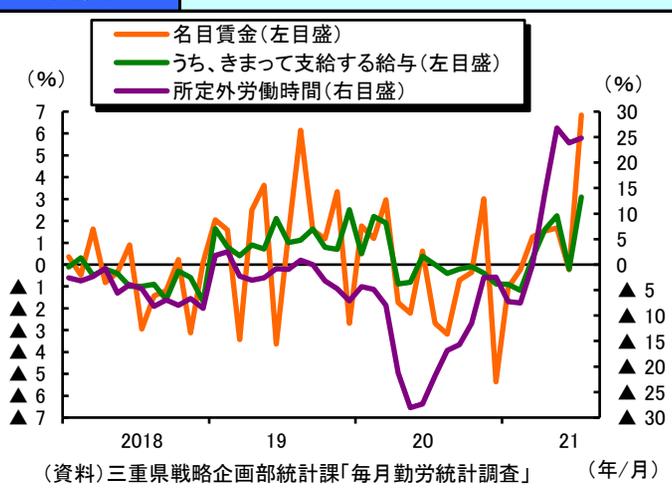
図表6 有効・新規求人倍率＜季節調整値＞



図表7 新規求人数＜学卒・パート除く＞



図表8 労働時間・賃金指数＜調査産業計、前年比＞



### 3. 個別部門の動向:企業部門

企業活動	持ち直しの動きがみられる	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☁
<p><b>《現状》</b></p> <p>○企業の生産活動は、持ち直しの動きがみられる。</p> <p>○8月の鉱工業生産指数は、前年比+9.2%と6か月連続の上昇(図表9)。業種別にみると、輸送機械(同▲26.0%)が大幅な減少となった一方、電子部品・デバイス(同+26.1%)の高い伸びが続いたほか、化学(同+14.0%)や汎用・生産用・業務用機械(同+28.7%)などが上昇。</p> <p><b>《見通し》</b></p> <p>○先行き生産は、持ち直しが一服する見通し。</p> <p>○電子部品・デバイスは、半導体市場調査会社の台湾Trend Forceによると、欧米で外出制限が緩和され家電製品の需要が鈍くなっていることを受け、NANDフラッシュメモリの契約価格は2021年10~12月期に前期比横這いから5%低下すると予測しており、生産も頭打ちとなることが懸念される。</p> <p>○輸送機械は、半導体不足や東南アジアでの新型コロナ流行により部品供給が滞っていることを受け、ホンダ鈴鹿製作所は10月の生産台数が計画から約4割の減産となると発表するなど、当面、生産を下押しすることが見込まれる。</p>			
<p><b>◆8月 鉱工業生産指数&lt;2015年=100&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 98.5 前年比 +9.2% (6か月連続の上昇)</li> <li>・汎用・生産用・業務用機械工業 前年比 +28.7% (5か月連続の上昇)</li> <li>・電子部品・デバイス工業 前年比 +26.1% (7か月連続の上昇)</li> <li>・輸送機械工業 前年比 ▲26.0% (3か月振りの低下)</li> <li>・化学工業 前年比 +14.0% (7か月連続の上昇)</li> </ul>		<p><b>図表9 鉱工業生産指数&lt;前年比&gt;</b></p> <p>(資料)三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p>	

企業倒産	小康状態	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☁
<p><b>《現状》</b></p> <p>○企業倒産は、小康状態。</p> <p>○9月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は5件(前年比+1件)と3か月連続の増加。負債総額も221百万円(同+93百万円)と3か月連続の増加(図表10)。</p> <p><b>《見通し》</b></p> <p>○緊急事態宣言が全面解除され、飲食や観光業を中心に需要回復への期待が高まっているものの、業績不振の長期化を受けコロナ融資の返済資金を確保できないといった過剰債務の問題も浮上しており、息切れ破綻や事業再開をあきらめて破綻に至るケースが増加することが懸念される。</p>			
<p><b>◆9月 企業倒産</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 倒産件数 5件 前年比 +1件 (3か月連続の増加)</li> <li>○ 負債総額 221百万円 前年比 +93百万円 (3か月連続の増加)</li> </ul>		<p><b>図表10 倒産件数・負債総額&lt;負債総額1,000万円以上&gt;</b></p> <p>(資料)㈱東京商工リサーチ津支店</p>	

<b>設備投資</b>	<b>持ち直しの動きがみられる</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	☁
<p><b>《現状》</b></p> <p>○企業の設備投資は、持ち直しの動きがみられる。</p> <p>○8月の非居住用建築物着工床面積は、35千㎡（前年比▲52.2%）と前年比で7か月振りの減少。9月の貨物車登録台数（除く軽）は、494台（同▲10.8%）と前年比で8か月振りの減少（図表11）。</p> <p><b>《見通し》</b></p> <p>○「第51回経営者アンケート」をみると、2021年10月～2022年3月に設備投資を「実施する」と回答した企業の割合は27.9%と、前回見通し（27.4%）対比で上昇しており、中小企業の投資マインドも改善傾向に。</p> <p>○先行き、道路交通網の整備による立地の優位性の高まりを背景に大企業の県内投資や県内企業の工場増設なども進むとみられ、持ち直して推移する見通し。</p>			
<p><b>◆8月 非居住用建築物着工床面積</b></p> <p>○ 35千㎡ 前年比 ▲52.2% （7か月振りの減少）</p> <p><b>◆9月 貨物車登録台数</b></p> <p>○ 494台 前年比 ▲10.8% （8か月振りの減少）</p>		<p><b>図表11 設備投資関連指標&lt;前年比&gt;</b></p> <p>(資料)国土交通省「建築着工統計」、日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」、三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p>	

**4. 個別部門の動向:海外部門**

<b>輸出</b>	<b>持ち直しの動きがみられる</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	☁
<p><b>《現状》</b></p> <p>○輸出は、持ち直しの動きがみられる。</p> <p>○9月の四日市港通関輸出額は、711億円（前年比+17.1%）となり、前年比で6か月連続の増加（図表12）。品目にみると、科学光学機器（同▲42.7%）や乗用車（同▲28.7%）の減少が持続した一方、石油製品（同+240.9%）が大幅に増加したほか、有機化合物（同+92.1%）などの化学製品が増加。</p> <p><b>《見通し》</b></p> <p>○電気機器類などが堅調に推移していた輸出額の約2割を占める中国向けについて、9月には前年比マイナスに転化。足元で景気減速傾向が強まっており、年度後半にかけては輸出のけん引役として期待できない状況に。さらに、乗用車輸出についても、半導体不足の長期化が生産拡大の障壁となっており、供給不足が解消されるまでは全体を下押しすることが懸念される。こうした状況下で、年度後半の輸出は伸び悩む展開が予想される。</p>			
<p><b>◆9月 四日市港通関輸出額</b></p> <p>○ 711億円 前年比 +17.1% （6か月連続の増加）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石油製品 66億円 前年比 +240.9% （2か月振りの増加）</li> <li>・有機化合物 71億円 前年比 +92.1% （8か月連続の増加）</li> <li>・電気回路等の機器 56億円 前年比 ▲12.7% （6か月振りの減少）</li> <li>・乗用車 32億円 前年比 ▲28.7% （3か月連続の減少）</li> <li>・自動車の部分品 50億円 前年比 +5.7% （5か月連続の増加）</li> <li>・科学光学機器 34億円 前年比 ▲42.7% （4か月連続の減少）</li> </ul>		<p><b>図表12 四日市港通関輸出額&lt;前年比&gt;</b></p> <p>(資料)名古屋税関四日市支署「管内貿易概況」</p>	

5. 個別部門の動向:公共部門

公共投資	持ち直している	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☁
<p>◀現状▶</p> <p>○公共投資は、持ち直している。</p> <p>○9月の公共工事請負状況をみると、請負件数は前年比▲4.1%と2か月連続の減少。請負金額は同▲3.9%と2か月連続の減少(図表13)。請負金額を発注者別にみると、市町(同+36.3%)は増加した一方、国(同▲68.5%)が大幅に減少したほか、県(同▲6.4%)なども減少。</p> <p>◀見通し▶</p> <p>○紀勢自動車道の一部区間4車線化や中勢バイパスの全線開通に向け道路交通網整備の大型工事が行われるほか、防災・減災対策の工事も引き続き行われ、持ち直して推移する見通し。3月に事業化が決定された近鉄四日市駅周辺を交通ターミナルとして整備する「バスタプロジェクト」も長期的に押し上げに作用する見込み。</p>			
<p>◆9月 公共投資</p> <p>○ 公共工事請負件数 491件 前年比 ▲4.1% (2か月連続の減少)</p> <p>○ 公共工事請負金額 219億円 前年比 ▲3.9% (2か月連続の減少)</p>		<p>図表13 公共工事請負金額</p> <p>(資料)東日本建設業保証㈱三重支店 (年/月)</p>	

6. 個別部門の動向:その他

物価	上昇の兆し	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	/
<p>◀現状▶</p> <p>○物価は、上昇の兆し。</p> <p>○9月の津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比+0.1%と2か月連続の上昇(図表14)。交通・通信(同▲4.8%)が下落した一方、教養娯楽(同+5.1%)や住居(同+0.8%)などが上昇。</p> <p>◀見通し▶</p> <p>○物価の先行きについて、携帯電話通信料の引き下げによる影響が今後も上昇率を抑制するとみられるものの、原油価格高騰を背景としたエネルギー価格の上昇ペース加速や、前年の「Go To トラベル」による宿泊料の大幅下落の反動が押し上げるほか、10月には小麦やマーガリンの値上げが行われるなど原材料価格高騰によるコスト増を転嫁する動きが広がる生鮮食品を除く食料についても伸びを高める可能性が高いことから、プラス幅が拡大することが予想される。</p>			
<p>◆9月 消費者物価指数&lt;生鮮食品を除く、2020年=100&gt;</p> <p>○ 99.8 前年比 +0.1% (2か月連続の上昇)</p> <p>・食料(生鮮食品を除く) 前年比 +0.4% (2か月連続の上昇)</p> <p>・住居 前年比 +0.8% (9か月連続の上昇)</p> <p>・光熱・水道 前年比 +1.2% (3か月振りの上昇)</p> <p>・交通・通信 前年比 ▲4.8% (12か月連続の下落)</p> <p>・教養娯楽 前年比 +5.1% (9か月連続の上昇)</p>		<p>図表14 津市消費者物価指数&lt;前年比&gt;</p> <p>(資料)総務省「消費者物価指数」</p>	



## 1. 三重県は同姓カップルなどを認める「パートナーシップ宣言制度」を開始

- 9月1日、三重県はLGBTなどの性的少数派のカップルを、県が家族と公的に認める「三重県パートナーシップ宣言制度」を開始。同様の制度の運用開始は、都道府県単位では茨城県、群馬県、大阪府、佐賀県に続き5番目となる。
- 制度では、性的少数者を含む成人同士のカップルが、お互いの人生をパートナーとして宣言した場合に、県が「宣言書受領証」を交付。受領証を受け取ることで、公営住宅への入居や公立医療機関での身分証明に利用できるほか、三十三銀行などの金融機関で住宅ローンを組む場合にパートナーを配偶者に指定できるようになるなど、行政や民間のサービスを家族と同様の扱いで受けられるようになる。

## 2. 三重県知事に一見勝之氏が初当選

- 9月12日、鈴木英敬氏の辞任に伴う三重県知事選挙が投開票され、無所属新人で元国土交通省自動車局長の一見勝之氏＝自民、立憲、公明、国民推薦＝が初当選。前県議の岡野恵美氏＝共産推薦＝、建設会社社長の石川剛氏のいずれも無所属新人2人を破った。三重県で新しい知事が誕生するのは10年振り。
- 一見知事は14日に行った就任後初の記者会見において、これまでの県による新型コロナウイルス感染対策について確認する「コロナレビュー(仮称)」の作業を始めることや、県政150周年を迎える2026年に向け、県の目指す姿をまとめた「三重元気プラン(仮称)」を年度内に策定する考えを示した。

## 3. 伊賀FCくノ一三重がサッカー女子・なでしこリーグ1部で優勝

- 9月25日、女子サッカーのアマチュア最高峰リーグ・なでしこリーグ1部に所属し、伊賀市を拠点とする女子サッカーチーム「伊賀FCくノ一三重」がオルガ鴨川FC(千葉県鴨川市)戦で勝利し、今季リーグ戦の優勝を決めた。開幕以降、12チーム中の首位を独走し、22年ぶりにリーグ制覇。
- 同クラブは、2021年9月に開幕した日本初の女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」に参入申請していたものの、ホームスタジアムの基準となった「5,000人以上収容」、「夜間照明設備」、「大型映像装置の設置」などの要件を満たすことができず、初年度の参入は見送られていた。

# 景 気 指 標

三十三総研  
2021/10/29

## <三重県>

(注) ( )内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整済前期(月)比

	2019年	2020年	2020年				2021年				
			10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	5月	6月	7月	8月	9月
大型小売店販売額(全店)	(▲ 0.1)	( 5.3)	( 5.4)	( 1.1)	(▲ 1.0)		(▲ 1.5)	(▲ 2.6)	(▲ 0.8)	(▲ 5.1)	
同 (既存店)	(▲ 2.2)	( 2.3)	( 4.5)	(▲ 0.0)	( 0.0)		(▲ 0.5)	(▲ 1.6)	( 0.2)	(▲ 4.1)	
新車販売台数(軽を除く、台)	58,613	50,995	13,862	16,764	11,758	12,010	3,525	4,343	4,425	3,900	3,685
	(▲ 2.6)	(▲ 13.0)	( 24.0)	( 11.0)	( 24.1)	(▲ 4.4)	( 41.3)	( 12.1)	( 6.1)	( 17.4)	(▲ 27.2)
うち乗用車販売台数(台)	51,181	44,665	12,202	14,919	10,255	10,319	3,104	3,768	3,858	3,347	3,114
	(▲ 4.0)	(▲ 12.7)	( 24.4)	( 12.2)	( 25.3)	(▲ 6.1)	( 44.8)	( 10.8)	( 4.2)	( 16.5)	(▲ 29.5)
新車軽自動車販売台数(台)	41,008	37,392	9,780	12,173	8,892	7,935	2,792	2,892	2,983	2,615	2,337
	(▲ 0.4)	(▲ 8.8)	( 22.4)	( 9.1)	( 35.4)	(▲ 19.7)	( 83.0)	( 4.2)	(▲ 8.8)	(▲ 5.3)	(▲ 39.3)
うち乗用車販売台数(台)	32,393	29,265	7,455	9,779	6,743	6,090	2,104	2,183	2,227	2,026	1,837
	(▲ 0.3)	(▲ 9.7)	( 21.3)	( 9.2)	( 33.5)	(▲ 22.0)	( 88.4)	( 1.7)	(▲ 12.9)	(▲ 7.8)	(▲ 39.8)
新設住宅着工戸数(戸)	10,162	9,558	2,764	2,389	2,504		743	838	883	925	
	(▲ 4.3)	(▲ 5.9)	( 4.6)	(▲ 2.1)	( 20.4)		( 11.1)	( 16.7)	( 5.2)	( 49.7)	
県内施設延べ宿泊者数(千人泊)	8,600	5,078	1,769	1,003	987		319	319	483		
	(▲ 3.4)	(▲ 40.9)	(▲ 14.7)	(▲ 32.1)	( 100.5)		( 166.2)	( 40.3)	( 29.2)		
有効求人倍率(季調済)	1.66	1.16	1.05	1.11	1.16		1.17	1.21	1.26	1.27	
新規求人倍率(季調済)	2.40	1.87	1.92	1.93	2.03		2.27	2.08	1.94	2.10	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	88,206	68,376	17,333	18,388	17,815		5,664	6,298	6,196	6,223	
	(▲ 4.0)	(▲ 22.5)	(▲ 18.1)	(▲ 6.1)	( 16.5)		( 21.1)	( 16.4)	( 14.7)	( 25.5)	
名目賃金指数(調査産業計)	( 0.6)	(▲ 0.9)	(▲ 2.0)	( 0.0)	( 0.8)		( 1.7)	(▲ 0.2)	( 6.8)		
実質賃金指数(同)	( 0.4)	(▲ 0.8)	(▲ 1.1)	( 0.3)	( 0.7)		( 1.7)	(▲ 0.6)	( 6.5)		
所定外労働時間(同)	(▲ 1.7)	(▲ 13.7)	(▲ 5.6)	(▲ 4.9)	( 21.1)		( 26.8)	( 23.9)	( 24.8)		
常用雇用指数(同)	( 0.1)	( 0.8)	( 0.9)	( 0.6)	( 1.4)		( 2.2)	( 1.1)	( 1.3)		
鉱工業生産指数	(▲ 4.1)	(▲ 6.2)	(▲ 1.3)	( 2.7)	( 18.5)		( 20.6)	( 21.8)	( 17.4)	( 9.2)	
	-	-	< 2.8>	< 3.9>	< 4.6>		<▲ 3.1>	< 6.0>	<▲ 3.1>	<▲ 2.4>	
生産者製品在庫指数	( 3.2)	( 11.6)	( 13.7)	( 3.1)	(▲ 6.0)		(▲ 8.6)	(▲ 5.8)	(▲ 4.8)	(▲ 6.7)	
	-	-	< 7.1>	<▲ 4.1>	<▲ 6.0>		<▲ 7.6>	< 1.9>	<▲ 1.8>	< 0.3>	
企業倒産件数(件)	68	66	17	15	11	22	6	4	10	7	5
(前年同期(月)比)(件)	( 1)	(▲ 2)	(▲ 6)	(▲ 9)	(▲ 3)	( 11)	( 3)	( 0)	( 7)	( 3)	( 1)
非居住用建築物着工床面積(千㎡)	622	774	303	146	193		52	78	75	35	
	(▲ 32.8)	( 24.4)	( 90.4)	( 21.0)	( 44.6)		( 92.6)	( 56.0)	( 32.3)	(▲ 52.2)	
県内外国貿易 純輸出(百万円)	▲ 749,754	▲ 376,892	▲ 47,855	▲ 148,030	▲ 115,779	▲ 216,078	▲ 49,697	▲ 13,923	▲ 30,056	▲ 105,510	▲ 80,526
輸出(百万円)	907,716	772,294	219,248	206,813	216,940	205,273	60,892	80,315	73,435	60,723	71,102
	( 5.7)	(▲ 14.9)	( 0.4)	(▲ 1.6)	( 38.9)	( 9.9)	( 39.5)	( 69.2)	( 23.7)	( 0.6)	( 6.0)
四日市港 輸出(百万円)	836,047	725,207	211,881	192,622	201,377	196,909	59,373	73,275	65,958	59,836	71,102
	(▲ 0.0)	(▲ 13.3)	(▲ 0.6)	(▲ 1.5)	( 33.7)	( 17.7)	( 36.0)	( 54.4)	( 24.7)	( 11.5)	( 17.1)
輸入(百万円)	1,657,470	1,149,186	267,103	354,843	332,719	421,352	110,589	94,238	103,490	166,233	151,628
	(▲ 7.6)	(▲ 30.8)	(▲ 36.4)	(▲ 10.6)	( 46.9)	( 63.7)	( 74.9)	( 36.9)	( 33.8)	( 92.1)	( 62.0)
公共工事請負金額(億円)	1,793	1,752	329	337	585	591	158	202	231	141	219
	(▲ 17.4)	(▲ 2.3)	(▲ 9.3)	( 8.0)	( 15.2)	(▲ 1.9)	( 26.1)	( 4.1)	( 7.4)	(▲ 11.5)	(▲ 3.9)
津市消費者物価指数	( 0.2)	(▲ 0.1)	(▲ 1.0)	(▲ 0.3)	(▲ 0.4)	(▲ 0.2)	(▲ 0.4)	( 0.1)	(▲ 0.3)	(▲ 0.4)	( 0.0)
同 (除く生鮮)	( 0.5)	(▲ 0.2)	(▲ 1.0)	(▲ 0.1)	(▲ 0.3)	( 0.1)	(▲ 0.1)	( 0.0)	( 0.0)	( 0.1)	( 0.1)

## <東海3県(三重・愛知・岐阜)>

	2019年	2020年	2020年				2021年				
			10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	5月	6月	7月	8月	9月
大型小売店販売額(全店)	(▲ 1.1)	(▲ 2.0)	( 1.4)	(▲ 0.8)	( 4.7)		( 4.7)	(▲ 2.5)	( 1.6)	(▲ 3.6)	
同 (既存店)	(▲ 1.1)	(▲ 3.2)	( 1.1)	(▲ 1.1)	( 4.7)		( 4.9)	(▲ 2.4)	( 2.4)	(▲ 2.7)	
新設住宅着工戸数(戸)	88,566	75,080	19,493	17,351	20,568		6,143	7,232	8,131	7,355	
	(▲ 0.3)	(▲ 15.2)	(▲ 13.0)	(▲ 8.9)	( 11.9)		( 23.9)	( 16.5)	( 21.3)	( 27.4)	
有効求人倍率(季調済)	1.90	1.24	1.05	1.13	1.20		1.20	1.24	1.29	1.30	
新規求人倍率(季調済)	2.90	2.06	2.04	2.15	2.23		2.38	2.26	2.34	2.33	
鉱工業生産指数	(▲ 1.6)	(▲ 13.1)	( 0.8)	(▲ 1.2)	( 39.7)		( 44.4)	( 47.8)	( 18.7)	( 5.0)	
	-	-	< 10.6>	<▲ 2.1>	< 2.5>		<▲ 12.3>	< 12.7>	<▲ 2.2>	<▲ 10.6>	
企業倒産件数(件)	762	746	172	130	109	148	41	37	52	41	55
(前年同期(月)比)(件)	(▲ 71)	(▲ 16)	(▲ 33)	(▲ 71)	(▲ 54)	(▲ 62)	( 19)	(▲ 20)	(▲ 35)	(▲ 28)	( 1)
域内外国貿易 純輸出(億円)	79,893	71,160	24,940	20,301	22,051	19,440	5,660	8,545	9,409	4,921	5,110
輸出(億円)	168,646	141,831	42,309	39,915	43,300	41,313	12,639	15,591	16,197	12,575	12,541
	(▲ 2.0)	(▲ 15.9)	( 2.6)	( 2.7)	( 67.2)	( 18.9)	( 75.7)	( 86.3)	( 48.1)	( 18.1)	(▲ 4.8)
輸入(億円)	88,753	70,671	17,370	19,614	21,249	21,874	6,979	7,046	6,788	7,655	7,431
	(▲ 3.9)	(▲ 20.4)	(▲ 20.0)	(▲ 2.4)	( 25.6)	( 34.3)	( 36.9)	( 44.5)	( 26.1)	( 45.4)	( 31.8)

各指標における直近の数値